

2025 年 5 月 9 日

政治倫理条例の検討についての意見表明

無所属 東京・品川からやさしい未来を のしのはりりか

東京品川からやさしい未来を、のしのはりりかです。

本日は、政治倫理条例の検討にあたり、意見を表明する機会を頂きましたので、数点、とくに昨年の当選まで民間企業で働いてきたという立場から意見を述べさせていただきます。

まず、条例案についての意見ですが、前文に今回の政治資金規正法に関わる問題から本条例が策定されるに至った経緯を明確に記載する、第三条の政治倫理基準においては「議員の品位と名誉を損ねる行為」について、具体的に明記する、附則については、任期中に再度見直しをする条項を加え新たな法改正や事案に臨機応変に対応できる柔軟な仕組みを盛り込んでおく、といったことは重要だと思っております。

次に、今回私が一番述べたいことについてですが、第五条の審査会の設置等に関してです。そもそもこのような、裏金問題が起こったことに対する真相解明については、議員同士で行うのではなく、専門職で構成される第三者委員会のような立ち位置のものにおいて行っていくべきものではないかと思えます。

企業や団体で不祥事が起こった際には、外部の専門家に委嘱して問題の解明や事実関係の明確化をすることが一般的なステップであり、やはりどうしても議員同士で行うと、政争の道具になってしまい問題が矮小化されることを危惧するものです。

都民の皆様より私に寄せられるご意見の多くは、真相解明については専門家に任せ、議員にはこういった真相解明のやりとりではなく、もっと都政を前に進めていくための政策についての議論等に時間を使ってほしい、という内容が多数です。

また今後の再発防止策についても、実効的な対策が求められると考えます。

これまで、収支報告書等が情報公開されていて、有権者がいつでも見ることができる状況にあり、監視があるからこそ、不届きな行動が牽制され倫理が保たれる、という前提のもとにあったのではないかと思います。

今回国政における裏金問題の発覚も、学者の方が精査を重ねてようやく明るみに出たということを考えれば、一般的に有権者が見ることができるというだけではこれは機能していないということではないでしょうか。

やはりこちらも民間企業における外部監査のように、専門家が定期的にチェックをしていくという常設の体制を作っていくことが重要だと考えます。

加えて、都民感情として最も許せない点は、都民や事業者には納税や社会保険料などの負担が増えている社会情勢にも関わらず、政治家は表には出ないお金のやり取りが事実上黙認されていたことだと考えます。すでに民間企業等においては、デジタル技術も活用して不正をしない、させない環境づくりが進められています。都議会においても、デジタル・AI技術の活用により、自動で「裏金」や「不適切な支出」を見つけ出すプログラムを導入するなどして、抜け道がなく、主観性を排除できる、しっかりとした体制を作るなど、これを機に全国の自治体の、さらには国に先駆けたモデルとなるような、透明性を高める取り組みを不断に行っていくことも必要だと考えます。

最後に、今後、場合によっては法改正が必要になることや、国に対して意見をするような場面が出てくることを想定して、全会派が自分ごととして捉え、政治の信頼を回復していくべく一丸となって取り組んでいくことが重要です。

民間における様々な手段、そして現代の新たなデジタル技術などを柔軟に都政に取り入れながら、あるべき姿を実現していきたいという私自身の決意も述べまして、私の意見表明を終わります。

ありがとうございました。

【条例案に対する具体的な意見】

- 前文関係
 - ・ 今回の政治資金規正法に関わる問題から本条例が制定させるに至った経緯を明確に記載し、政治とカネの問題に対する都民の不信に答える決意を記載すべき
- 第3条関係
 - ・ 政治倫理違反を認定した場合に、どの基準に違反しているかを定義し、評価をおこなえるよう、政治倫理基準について具体的に定めるべき
- 第5条関係
 - ・ 審査会の委員に議員はなるべきではなく、第三者委員会として設置することが重要
 - ・ 収支報告書について専門家が定期的にチェックをする常設の体制を整備することが重要
- 附則関係
 - ・ 任期中に1度は点検する、など見直し条項を加えるべき
 - ・ 新たな法改正や事案に対応できる柔軟な仕組みを条例に盛り込むべき

以上